

28. 味覚障害を起こす薬剤

近年、味覚障害は増加傾向にあり、わが国における患者数は推定約24万人である（2003年6月、日本口腔・咽頭科学会の調査）。その原因として、食事（孤食、偏食、加工食品の多用、過度のダイエット等）や、高齢化による消化管吸収能・唾液分泌能の低下、歯の欠損による咀嚼機能の低下、薬剤の多用などが考えられる。

〔味覚のしくみ〕

ヒトの味覚受容器は口腔粘膜、特に舌に分布している味蕾の中にある味細胞である。主に舌の前2/3の表面に散在する茸状乳頭や舌の外側縁にある葉状乳頭、および舌の後部に存在する有郭乳頭に多数の味蕾が存在するが、舌表面に広く分布する糸状乳頭には存在しない。舌の部位により、甘味、塩味、酸味、苦味の4つの基本的な味覚を感じる部位が決まっている（図1）。この他、味覚にはうま味もある。

味覚を支配する神経は、舌の前2/3を顔面神経の枝である舌神経が、舌の後1/3を舌咽神経が支配している。喉や咽頭部にもわずかな味蕾が存在し、これらは迷走神経の支配を受ける。これらの神経は、延髄の孤束核、内側毛帯を経由して視床腹内側核から大脳皮質頭頂弁蓋部に投射され味覚を感じる（図1）。

味覚は個人差が大きく、年齢や性、精神的因子、気候風土等の影響を受け、特に温度による影響は大きい。広い意味での食物の味は、単に味覚によるだけでなく、色や形（視覚）、香り（嗅覚）、肌合い（触覚）、熱いか冷たいか（温度覚）など、口のすべての感覚要素が重なってはじめて完全なものとして認識される。

〔味覚障害の原因〕

原因別では薬剤性と、食事性と考えられる亜鉛欠乏症および特発性（血清亜鉛値は正常であるが、亜鉛による治療が可能）が多く、薬剤性は全体の24%を占め、特に70歳以上では約35%が薬剤性味覚障害である（図2）。添付文書に味覚障害等の記載がある薬剤は多岐にわたり、多科受診する高齢者の場合は原因となる複数の薬剤を併用していることが多く、食事性と薬剤性が重なって亜鉛欠乏性味覚障害が起りやすくなるので注意を要する（表3）。

その他、全身疾患（糖尿病、胃腸手術後、肝障害、腎障害等）、心因性、口腔疾患（口腔乾燥、歯肉炎、舌炎等）、味覚神経障害、放射線療法、感冒後、味覚・嗅覚同時障害（多くは感冒後）なども原因となる。

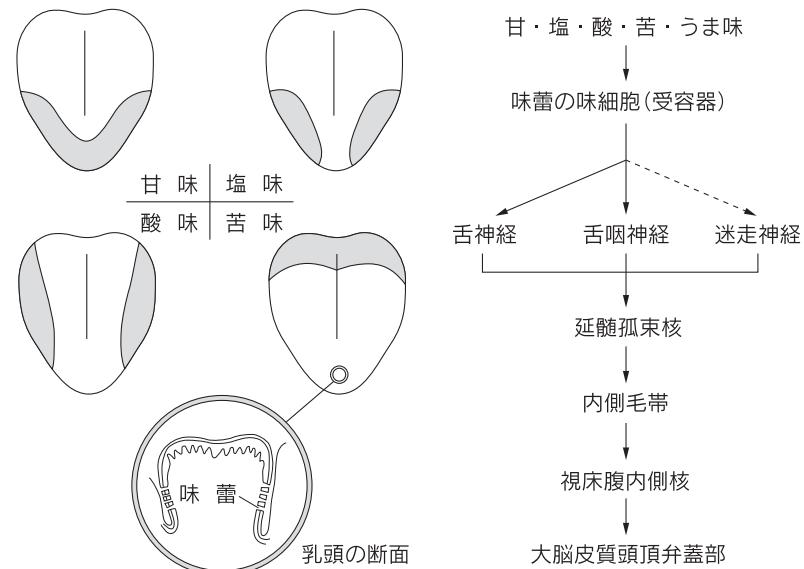


図1 舌の味覚受容器の分布と神経経路

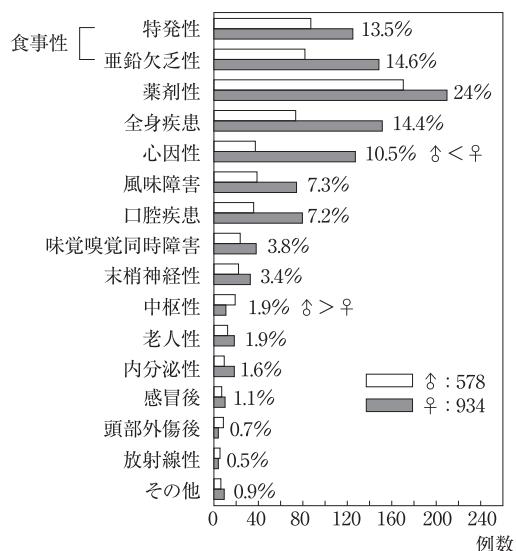


図2 味覚障害の原因別と性別の頻度

[味覚障害の症状]

主な症状は下記のとおりで、約8割が味覚減退、味覚消失を訴える。風味障害（食物の味がわからないと訴えて来院するが、これは嗅覚障害による）は除く。

- ・味覚減退（味覚鈍麻）：味が鈍くなる、薄くなる。症状の中で一番多い。
- ・味覚消失（味覚脱失）：味がしなくなる、全くわからなくなる。
- ・自発性異常味覚：口の中に何もないのに、いつも苦味、渋味、塩辛味、金属味等がする。高齢者に多い。
- ・解離性味覚障害：特定の味質だけがわからない。
- ・異味症：ある食物や飲物の味が本来の味と違う。例えば醤油を苦く感じる等。
- ・悪味症：食物が何とも表現できない嫌な味になる。
- ・合併症状：舌痛症（舌先や舌縁に灼熱感、ピリピリ、チリチリなどの違和感を訴え、肉眼的所見はない）、口腔内乾燥、舌の色調の変化、嗅覚障害の合併も見られる。

[薬剤性味覚障害の発現機序]

完全には解明されていないが、下記の機序が考えられている。

① 亜鉛欠乏

薬剤が亜鉛(Zn)とキレート結合し、尿中への亜鉛排泄を促進することにより亜鉛欠乏が起こる。

チオール基(-SH)、カルボキシル基(-COOH)、アミノ基(-NH₂)を有し、5員環、6員環キレートを作る化学構造を有する薬剤は注意を要する（図3）。

亜鉛は味蕾に豊富に含まれ、味覚の受容機構に関与している。亜鉛が不足すると味蕾に形態的異常が現れ、味蕾細胞の再生（約10日間）を延長させ、味覚減退を起こす可能性がある。

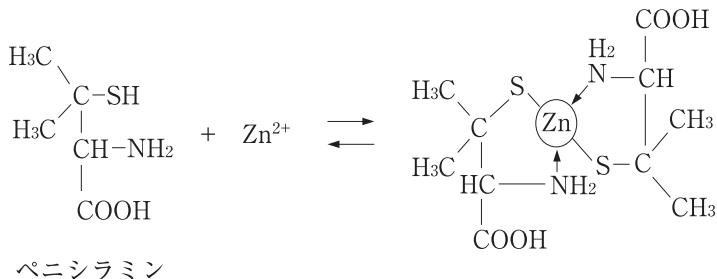


図3 ペニシラミンと亜鉛(Zn)のキレート構造

② 唾液分泌の抑制

抗コリン作用を有する薬剤により唾液分泌が抑制され、味覚物質が味蕾に到達できない。

③ 味覚神経への影響

左右計8本の神経を介した味覚の脳への伝達が阻害される。

[味覚障害の検査方法]

① ろ紙ディスク法（テーストディスク™、製造：三和化学）

舌全体の味覚減退や自発性異常味覚を訴える場合。甘・塩・酸・苦味質の定性、定量が可能。

② 電気味覚検査法（TR-06型電気味覚計、製造：リオン）

味覚神経障害を訴える場合。舌を微量電流で刺激し、味覚障害の程度を判定。味質の定性はできない。

[薬剤性味覚障害の治療]

早期診断・早期治療が治療効果をあげるために重要である。

① 原因薬剤の減量・中止、他薬への変更

② 亜鉛の補給（表1参照：いずれも保険請求はできない）

薬剤性味覚障害の約40%に血清亜鉛値の低下が認められるが、血清亜鉛値が正常でも組織内濃度が低いこともある。亜鉛欠乏による味覚障害の治療効果は、発現から受診までの病歴期間が短いほど有効率

は高く、発現6ヶ月以内では75%であるが、1年以上では50%に低下すると言われている。また加齢とともに長期化する。

味蕾細胞の再生に要する期間は1週間～10日程度なので、亜鉛の効果発現は早くても投与開始2週間、最低でも1～2ヶ月間は服用を継続して経過観察し、6ヶ月以上服用しても効果がみられない場合は、亜鉛治療の中止が望ましい。味蕾が多い舌後方（舌咽神経領域）から治ってくる場合が多い。

現在、亜鉛製剤を味覚障害の治療に用いるが、いずれも保険適応外である（表1）。また同時に、亜鉛を多く含む食品による食事指導や健康食品の摂取も行う（表2）。

表1 味覚障害の治療に用いる亜鉛製剤

亜鉛 (Zn) の種類		亜鉛 (Zn) 含有量	概 要
試 薬 特 級	硫酸亜鉛 $\text{ZnSO}_4 \cdot 7\text{H}_2\text{O}$	100mg/C (Zn=22.7mg)	医療用医薬品の市販はないので、調製する。 【用法】 カプセルに充填、あるいはオブラーに包む。 1回1個、1日3回、消化器症状を防ぐために毎食直後（または食事中）に服用する。
	グルコン酸亜鉛 $\text{Zn}(\text{C}_6\text{H}_{11}\text{O}_7)_2$	158mg/C (Zn=22.6mg)	
	酢酸亜鉛 $\text{Zn}(\text{CH}_3\text{COO})_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$	100mg/C (Zn=29.8mg)	
	ピコリン酸亜鉛 $\text{Zn}(\text{C}_5\text{H}_4\text{NCO}_2)_2$	137mg/C (Zn=28.9mg)	
医 薬 品	ポラプレジンク (プロマックTM顆粒・同D錠)	150mg/gまたは2T (Zn=33.9mg)	150mgを1日2回、食直後に服用する。 適応は胃潰瘍で、味覚障害には適応はない。

③ 口腔内乾燥や舌痛症を合併する場合

人口唾液（サリベートTM）、唾液分泌促進薬のセビメリン（エボザックTM、サリグレンTM）、アネトールトリチオン（フェルビテンTM）、ピロカルピン（サラジェンTM）、漢方薬の白虎加入参湯、麦門冬湯などの投与。

[血清亜鉛値と白血球亜鉛値の正常値]

第6次改定日本人の栄養所要量で、亜鉛の1日所要量は成人男性が10～12mg、成人女性が9～10mg、許容上限摂取量は30mgである。亜鉛の消化管からの吸収にはホメオスタシスが働き、内服による亜鉛中毒は起ららないが、吸収には個人差があるので、亜鉛補給中には定期的に血清亜鉛値を測定し、過剰摂取にならないように注意する。

- ・ 血清亜鉛値 正常値：80～160 $\mu\text{g}/\text{dL}$
- ・ 白血球亜鉛値 正常値：70～92 $\mu\text{g}/\text{g} \cdot \text{protein}$ （潜在性亜鉛欠乏の診断に使用）

[食事指導]

① 亜鉛を多く含む食品を摂取する（表2）。

カキをはじめとする貝類、海藻、キノコや大豆類など。

② 加工食品に頼らず、多彩な食材をバランス良く摂取する。

食品添加物に含まれるポリリン酸やフィチン酸、カルボキシメチルセルロース、EDTA（エチレンジアミン四酢酸）等は強い金属キレート能を有し、亜鉛の吸収を妨げる可能性がある。また高カルシウム食、高食物繊維食、低たんぱく食、高フィチン食、高銅食、高鉄食、タンニン酸、カフェイン等も亜鉛の吸収を妨げたり、排泄を促進する可能性がある。

一方、亜鉛の吸収を促進するものには、蛋白質、アミノ酸（リジン、システイン、グリシン）、乳糖、ビタミンC等がある。

表2 亜鉛を多く含む食品

分類	食 品 名	1食あたり		可食部100g中 亜鉛含有量(mg)
		1人前目安量(g)	亜鉛含有量(mg)	
穀類	小麦胚芽	10g	1.59	15.9
	そば粉（全層粉）	1人前 (72g)	1.73	2.4
	麩（観世麩）	9 g	0.2	2.2
豆類	えんどう（全粒、乾）	1人前 (50g)	2.05	4.1
	きな粉（全粒大豆）	大さじ5杯 (30g)	1.05	3.5
	凍り豆腐	1枚 (20g)	1.04	5.2
	ささげ（全粒、乾）	30g	1.47	4.9
	そらまめ（全粒、乾）	5～6個 (50g)	2.3	4.6
	大豆（全粒、乾、国産）	大さじ2杯 (20g)	0.64	3.2
種実類	アーモンド（乾）	20粒 (28g)	1.12	4.0
	カシューナッツ（フライ、味付け）	20粒 (30g)	1.62	5.4
	ごま（乾）	大さじ1杯 (10g)	0.55	5.5
	松の実（煎り）	大さじ3杯 (27g)	1.62	6.0
野菜類	しそ（葉、生）	1枚 (1 g)	0.01	1.3
きのこ類	干ししいたけ（乾）	1人前 (2 g)	0.05	2.3
藻類	あおのり（素干し）	1人前 (1 g)	0.03	2.6
	あまのり（干し）	1人前 (1 g)	0.04	3.7
魚介類	うなぎ蒲焼	1串 (60g)	1.62	2.7
	カキ（養殖、生）	5～6個 (60g)	7.92	13.2
	かたくちいわし（煮干し）	5～6尾 (10g)	0.72	7.2
	するめ	1人前 (5 g)	0.27	5.4
	ずわいがに（水煮缶詰）	1人前 (50g)	2.35	4.7
	たらこ（生）	1/2腹 (40g)	1.24	3.1
	たらばがに（ゆで）	足1本 (85g)	3.57	4.2
	干しえび	大さじ1杯 (8 g)	0.31	3.9
	帆立貝（生）	1個 (70g)	1.89	2.7
	肝臓（ウシ、生）	60g	2.28	3.8
肉類	肝臓（ブタ、生）	60g	4.14	6.9
	牛肉（和牛、もも、赤肉、生）	100g	4.4	4.4
	ラム（かた、脂身つき、生）	100g	5.0	5.0
卵類	卵黄	中1個 (18g)	0.76	4.2
乳類	脱脂粉乳	大さじ4杯 (20g)	0.78	3.9
	チエダーチーズ	1切れ (30g)	1.2	4.0
	パルメザンチーズ	大さじ1杯 (5 g)	0.37	7.3
	プロセスチーズ	1切れ (30g)	0.96	3.2
嗜好飲料	ピュアココア			7.0
	抹茶	小さじ1/2杯 (1 g)	0.06	6.3
香辛料 調味料	辛子（粉）			6.6
	唐辛子（粉）			2.0
	豆味噌	18g	0.36	2.0

表3 添付文書に味覚異常、味覚障害等の記載がある薬剤

2008年1月現在

薬効分類	一般名（主な商品名）	添付文書上の表記内容
催眠鎮静薬 抗不安薬	エスタゾラム（ユーロジン）	口内苦味感
	クアゼパム（ドラール）	味覚倒錯
	ゾピクリン（アモバン）	口中にがみ、薬自体に苦味
	トリアゾラム（ハルシオン）	味覚変化
	フルトプラゼパム（レスタンス）、フルニトラゼパム（サイレース、ロヒプノール）、フルラゼパム（ダルメート、ベノジール）	口中苦味/口の苦味/口の苦み
	ロフラゼブ酸エチル（メイラックス）	味覚倒錯
抗てんかん薬	カルバマゼピン（テグレトール）、トピラマート（トピナ）	味覚異常
解熱鎮痛消炎薬 (NSAIDs)	アセメタシン（ランツジール）	口中の苦味
	アルミノプロフェン（ミナルフェン）、ジクロフェナクナトリウム（ボルタレン）、メロキシカム（モービック）	味覚障害
	イブプロフェン（ブルフェン）、インドメタシンファルネシル（インフリー）、スリンダク（クリノリル）、セレコキシブ（セレコックス）、チアプロフェン酸（スルガム）、モフェゾラク（ジソペイン）	味覚異常
	プログルメタシン（ミリダシン）	味覚障害、口中苦味
	ロルノキシカム（ロルカム）	苦味
覚せい剤	メタンフェタミン（ヒロポン）	不快な味覚
抗パーキンソン病薬	エンタカポン（コムタン）、レボドバ（ドパール、ドバストン、ドパゾール）、レボドバ・カルビドバ（ネオドバストン）	味覚異常
	セレギリン（エフピー）	味覚異常、味覚低下
	プラミペキソール（ビ・シフロール）	苦味
	ペルゴリド（ペルマックス）	味覚障害
抗うつ薬	アミトリプチリン（トリプタノール）、アモキサピン（アモキサン）、イミプラミン（トフラニール）、クロミプラミン（アナフラニール）、セルトラリン（ジェイゾロフト）、トラゾドン（デジレル、レスリン）、トリミプラミン（スルモンチール）、ノルトリプチリン（ノリトレン）、ミルナシプラン（トレドミン）	味覚異常
	ドスレピン（プロチアデン）、ロフェプラミン（アンプリット）	口内苦味感
	フルボキサミン（デプロメール、ルボックス）、ミアンセリン（テトラミド）	苦味/にがみ
	マプロチリン（ルジオミール）	味覚異常、口内苦味感
	クエチアピン（セロクエル）	味覚倒錯
抗精神病薬	ゾテピン（ロドピン）	味覚異常
	マジンドール（サノレックス）	口中苦味感
筋弛緩薬	ダントロレンナトリウム（ダントリウム）、バクロフェン（ギャバロン、リオレサール）	味覚異常
	チザニジン（テルネリン）	口中苦味感
交感神経刺激薬	ドカルパミン（タナドーパ）	苦味
抗不整脈薬	アミオダロン（アンカロン）	味覚異常
	ピルメノール（ピメノール）	口中苦味
	フレカイニド（タンポコール）	味覚異常、苦味感
	プロパフェノン（プロノン）	味覚倒錯
	メキシレチン（メキシチール）	味覚異常、にがみ
利尿薬	アセタゾラミド（ダイアモックス）、フロセミド（ラシックス）	味覚異常
中枢性α ₂ 受容体刺激薬	グアナベンズ（ワイテンス）	苦味感

薬効分類	一般名（主な商品名）	添付文書上の表記内容
β 受容体遮断薬	エスマロール（プレビブロック），ニプラジロール（ハイパジール）	味覚障害
	セリプロロール（セレクトール），メトプロロール（セロケン，ロプレソール）	味覚異常
ACE阻害薬	アラセブリル（セタブリル），イミダブリル（タナトリル，ノバロック），エナラブリル（レニベース），カプトブリル（カプトリル），キナブリル（コナン），シラザブリル（インヒベース），テモカブリル（エースコール），デラブリル（アデカット），ベナゼブリル（チバセン），リシノブリル（ゼストリル，ロンゲス）	味覚異常
	ペリンドブリルエルブミン（コバシル）	味覚異常（苦味等）
アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（ARB）	カンデサルタンセキセチル（プロプレス），バルサルタン（ディオバン）	味覚異常
	ロサルタンカリウム（ニューロタン），ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド配合（プレミネット）	味覚障害
選択的アルドステロン受容体拮抗薬	エプレレノン（セララ）	味覚倒錯
カルシウム拮抗薬	アムロジピン（アムロジン，ノルバスク），シルニジピン（アテレック，シナロング），マニジピン（カルスロット）	味覚異常
	アラニジピン（サプレスター）	異味感
片頭痛治療薬	リザトリプタン（マクサルト）	味覚異常
虚血性心疾患治療薬	ジラゼプ（コメリアン）	苦味感
	トラビジル（ロコルナール）	味覚異常
抗血小板薬	クロピドグレル（プラビックス）	味覚低下
	シロスタゾール（プレタール）	味覚異常
	チクロピジン（パナルジン）	味覚障害
鎮咳薬	クロフェダノール（コルドリン）	味覚低下，にがみ感
去痰薬	フドステイン（クリアナール，スペリア）	味覚異常
自律神経用薬	ガンマ-オリザノール（ハイゼット）	無味感
高脂血症用薬	アトルバスタチン（リピトール），シンバスタチン（リポバス），ピタバスタチンカルシウム（リバロ），プラバスタチンナトリウム（メバロチン），フルバスタチンナトリウム（ローコール），ベザフィブラー（ベザトールSR，ベザリップ）	味覚異常
	コレスチミド（コレバイン）	苦味
	フェノフィブラー（トライコア，リピディル）	味覚低下
消化性潰瘍治療薬	オメプラゾール（オメプラゾール，オメプラゾン），ファモチジン（ガスター），ランソプラゾール（タケプロン），レバミピド（ムコスタ）	味覚異常
	ラベプラゾールナトリウム（パリエット）	苦味
消化管運動改善薬	モサプリド（ガスモチン）	味覚異常
利胆薬	デヒドロコール酸（デヒドロコール酸注）	静注により苦味感
止瀉薬	ロペラミド（ロペミン）	味覚の変調
抗甲状腺薬	チアマゾール（メルカゾール），プロピルチオウラシル（チウラジール）	味覚減退
ゴナドトロピン放出ホルモン	ナファレリン（ナサニール），ブセレリン（スプレキュア），リュープロレリン（リュープリン）	味覚異常
その他のホルモン・抗ホルモン剤	コルチコレリン（ヒトCRH）	口内苦味
	ダナゾール（ボンゾール），ミトタン（オペブリム）	味覚異常
	プラルモレリン（注射用GHRP）	苦味
	プロチレリン（ヒルトニン）	異味感

薬効分類	一般名（主な商品名）	添付文書上の表記内容
泌尿器官用薬	イミダフェナシン（ウリトス、ステーブラ）、ソリフェナシン（ベシケア）、タムスロシン（ハルナール）、ナフトピジル（アビショット、フリバス）、プロピベリン（バップフォー）	味覚異常
	オキシブチニン（ポラキス）	口が苦い
	シルデナフィル（バイアグラ）	味覚異常、味覚消失
	シロドシン（ユリーフ）	苦味
ビタミン剤	トルテロジン（デトルシトール）	味覚倒錯
	エトレチナート（チガソン）	味覚異常
肝疾患治療薬	チオプロニン（チオラ）	味覚異常
解毒剤	プラリドキシムヨウ化メチル（パム）	口内苦味感
	ホリナートカルシウム（ユーゼル、ロイコボリン）、メスナ（ウロミテキサン）、レボホリナートカルシウム（アイソボリン）	味覚異常
痛風治療薬	アロプリノール（ザイロリック）	味覚障害
糖尿病治療薬	アカルボース（グルコバイ）、ナテグリニド（スターシス、ファスティック）、ボグリボース（ペイシン）、メトホルミン（グリコラン、メルビン）	味覚異常
骨粗鬆症治療薬	アレンドロン酸ナトリウム（フォサマック、ボナロン）	味覚倒錯
	イ普リフラボン（オステン）、ゾレドロン酸水和物（ゾメタ）、リセドロン酸ナトリウム水和物（アクトネル、ベネット）	味覚異常
免疫抑制薬	タクロリムス水和物（プログラフ）、ミゾリビン（ブレディニン）	味覚異常
抗悪性腫瘍薬	イマチニブ（グリベック）、イリノテカン（カンプト、トポテシン）、エキセメスタン（アロマシン）、エストラムスチンナトリウム（エストラサイト）、エトポシド（ベプシド、ラステット）、エルロチニブ（タルセバ）、オキサリプラチン（エルプラット）、カペシタビン（ゼローダ）、カルボプラチニン（パラプラチニン）、カルモフル（ミフロール）、ゲムシタビン（ジェムザール）、ゲムツズマブオゾガマイシン（マイロターグ）、三酸化ヒ素（トリセノックス）、シクロホスファミド（エンドキサンP）、シスプラチニン（アイエーコール、ランダ）、ソブゾキサン（ペラゾリン）、テガフル（フトラフル）、テガフル・ウラシル（ユーエフティ）、テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム（ティーエスワン）、テモゾロミド（テモダール）、ドキシフルリジン（フルツロン）、ドセタキセル水和物（タキソール）、ネララビン（アラノンジー）、ビノレルビン（ナベルビン）、ピラルビシン（テラルビシン、ピノルビン）、ビンプラスチン（エクザール）、ファドロゾール（アフェマ）、ブスルファン（ブスルフェクス）、フルオロウラシル（5-FU）、フルダラビン（フルダラ）、ベバシズマブ（アバスチン）、ペメトレキセドナトリウム水和物（アリムタ）、ボルテゾミブ（ペルケイド）、ミトキサントロン（ノバントロン）、メトトレキサート（メソトレキセート）	味覚異常
	フルタミド（オダイン）、ビンクリスチン（オンコビン）、レトログール（フェマーラ）	味覚障害
	ドキソルビシン（ドキシリル）	味覚倒錯
	パクリタキセル（タキソール）	味覚倒錯、味覚喪失
	ビンデシン（フィルデシン）	味覚異常、味覚低下
	インターフェロン α （NAMALWA）（スミフェロン）、インターフェロン α （BALL-1）（オーアイエフ）	味覚異常、味覚低下
	インターフェロン α -2b（イントロンA）、インターフェロンアルファコン-1（アドバフェロン）、インターフェロン β （フェロン）、ペゲインターフェロン α -2a（ペガシス）	味覚異常
インターフェロン	ペゲインターフェロン α -2b（ペゲイントロン）	味覚障害
	サラゾスルファピリジン（アザルフィジンEN、サラゾピリン）	味覚異常

薬効分類	一般名（主な商品名）	添付文書上の表記内容
抗生素質	アジスロマイシン（ジスロマック），セフォジジムナトリウム（ノイセフ），セフタジジム（モダシン）	味覚障害
	アモキシシリン（サワシリン），イミペネム・シラスタチンナトリウム（チエナム），セフェピム（マキシピーム），セフピロム（ケイテン，ブロアクト），ミノサイクリン（ミノマイシン），ロキシスロマイシン（ルリッド）	味覚異常
	クラリスロマイシン（クラリス，クラリシッド）	味覚異常（にがみ等），味覚倒錯，味覚喪失
	クリンダマイシン（ダラシン）	苦味
	テリスロマイシン（ケテック）	味覚異常，味覚障害
抗真菌薬	アムホテリシンB（アムビゾーム，ファンギゾン），イトラコナゾール（イトリゾール内用液），グリセオフルビン（ポンシルFP），ボリコナゾール（ブイフェンド），ミコナゾール（フロリードゲル経口用）	味覚異常
	イトラコナゾール（イトリゾールCap・注），フルコナゾール（ジフルカン），ホスフルコナゾール（プロジェクト）	味覚倒錯
	テルビナフィン（ラミシール）	味覚異常，味覚消失
合成抗菌薬	エノキサシン（フルマーク）	味覚低下
	オフロキサシン（タリビッド），ガチフロキサシン（ガチフロ），シプロフロキサシン（シプロキサン），トスフロキサシン（オゼックス，トスキサシン），レボフロキサシン（クラビット）	味覚異常
	ガレノキサシン水和物（ジェニナック），モキシフロキサシン（アベロックス）	味覚障害
	ピロミド酸（パナシッド）	苦味感
	リネゾリド（ザイボックス）	味覚消失，味覚倒錯
抗HIV薬 AIDS合併症治療薬	アザナビル（レイアタツ），インジナビル（クリキシバン），エファビレンツ（ストックリン），ガンシクロビル（デノシン），ジドブジン（レトロビル），ジドブジン・ラミブジン（コンビビル），デラビルジン（レスクリプター），バルガンシクロビル（バリキサ），ホスカルネットナトリウム水和物（ホスカビル），リトナビル（ノービア），ロピナビル・リトナビル（カレトラ）	味覚倒錯
	エムトリシタビン・テノホビルジソプロキシル（ツルバタ），サニルブジン（ゼリット），ジダノシン（ヴァイデックス），テノホビルジソプロキシル（ビリアード）	味覚異常
	サキナビル（インビラーゼ）	味覚異常
	サキナビル（フォートベイス）	味覚変化
	ネビラピン（ビラミューン）	味覚倒錯，味覚喪失
	ネルフィナビル（ビラセプト）	味覚異常，味覚喪失
	ペンタミジン（ペナンバックス）	味覚障害
他の抗ウイルス薬	アシクロビル（ゾビラックス），ザナミビル（リレンザ），リバリン（レベトール）	味覚障害
抗リウマチ薬	アクタリット（オークル，モーバー），エタネルセプト（エンブル），オーラノфин（リドーラ），ブシラミン（リマチル），メトトレキサート（リウマトレックス）	味覚異常
	インフリキシマブ（レミケード），ロベンザリット2ナトリウム（カルフェニール）	味覚倒錯
	金チオリンゴ酸ナトリウム（シオゾール）	口腔粘膜症状（味）
	ペニシラミン（メタルカプターゼ）	味覚異常，味覚脱失
	レフルノミド（アラバ）	味覚障害

薬効分類	一般名（主な商品名）	添付文書上の表記内容
抗アレルギー薬	アゼラスチン（アゼブチン）	薬自体の苦味のため苦味感、味覚異常
	イブジラスト（ケタス）、エバスチン（エバステル）、オロパタジン（アレロック）、ケトチフェン（ザジテン）、ザフィルルカスト（アコレート）、スプラタスト（アイピーディ）、セチリジン（ジルテック）、セラトロダスト（プロニカ）、プランルカスト水和物（オノン）、メキタジン（ゼスラン、ニポラジン）、ラマトロバン（バイナス）	味覚異常
	エピナスチン（アレジオン）	味覚低下、にがみ
	エメダスチン（ダレン、レミカット）、オキサトミド（セルテクト）	苦味/にがみ
眼科用薬	ロラタジン（クラリチン）	味覚障害
	アプラクロニジン（アイオビジンUD点眼液）	味覚異常
	カルテオロール（ミケラン・同LA点眼液）、ドルゾラミド（トルソプト点眼液）	苦味
	ブリンゾラミド（エイゾプト懸濁性点眼液）	味覚倒錯
耳鼻科用薬	モキシフロキサシン（ベガモックス点眼液）	味覚異常（苦味）
	コールタイジン™	苦味
	トラマゾリン（トーク）	味覚障害
呼吸器官用薬	フルチカゾン（フルナーゼ）	不快な味
	アドエア™、シクレソニド（オルベスコ）、フルチカゾン（フルタイド）	味覚異常
	臭化イプラトロピウム（アトロベント）、臭化オキシトロピウム（テルシガン）	苦味/にがみ
	臭化チオトロピウム（スピリーバ）	味覚倒錯
口腔用薬	ベクロメタゾン（アルデシン、キュバール）	味覚障害
	人工唾液（サリベート）	味覚変化
	デスパコーウ™	味覚異常
禁煙補助剤	トリアムシノロンアセトニド口腔用（ケナログ）	味覚異常、味覚減退
	ニコチン（ニコチネルTTS）	味覚倒錯（口中苦味感、味覚異常）
X線造影剤	イオキサグル酸（ヘキサブリックス）	にがみ
	イオプロミド（プロスコープ）	味覚障害、苦味
	イオパミドール（イオパミロン）	口内にがみ感
	イオベルソール（オブチレイ）、イオメプロール（イオメロン）	味覚異常
MRI用造影剤	カドキセト酸ナトリウム（EOB・プリモビスト）	味覚倒錯
	ガドテリドール（プロハンス）	味覚異常
	ガドテル酸メグルミン（マグネスコープ）	異味感
放射性医薬品	カーディオライト™注射液第一、塩化タリウム（ ²⁰¹ TI）注射液	口内苦味感
	カルディオダイン™注	味覚異常
	マイオビューム™注	金属味
その他	アガルシダーゼα（リプレガル）	味覚異常
	アデノシン（アデノスキヤン）	味覚倒錯
	エクストラニール™	味覚消失
	エポエチンα（エスパー）、エポエチンβ（エポジン）	口内苦味感
	オキシコドン（オキシコンチン、オキノーム）	味覚異常
	クロファジミン（ランプレン）	味覚障害
	サルボグレラート（アンプラーグ）	味覚異常
	シアナミド（シアナマイド）	味覚障害
	シナカルセト（レグバラ）	味覚異常
	セビメリソ（エボザック、サリグレン）	味覚異常
	ピロカルピン（サラジエン）	味覚異常
	ポリドカノール（ポリドカスクレロール）	味覚異常
	(次ページへつづく)	

薬効分類	一般名（主な商品名）	添付文書上の表記内容
(前ページよりつづき) その他	ヨウ化カリウム	金属味覚
	リマプロスト（オパルモン、プロレナール）	味覚異常
	リルゾール（リルテック）	味覚障害
	ルリオクトコグα（アドベイト）	味覚異常

- 注) ① 舌痛、舌のしびれ感、刺激感、口内の乾燥・違和感・異常感・不快感などの合併症状は記載から除外している。
- ② 苦味については、薬剤自体の苦味によるものがあり（一部の添付文書には記載あり）、必ずしも味覚障害ではないケースも含まれている可能性がある。
- ③ 富田らは、添付文書には味覚障害等の記載はないが、イソニアジド、エタンブトール、パラアミノサリチル酸、メトクロプラミド、チアジド系薬、スピロノラクトン、メチルドバ、ビグアナイド系薬、リンコマイシン、テトラサイクリン、グルタチオン等には亜鉛キレート能があり、亜鉛欠乏性味覚障害の原因となる可能性があるとしている。

〔文献〕

- 愛場庸雅：日本医事新報 No.3824 : 114, 1997.
- 佐藤正美：ibid. No.3786 : 97, 1996.
- 田中正美ら：日本薬剤師会雑誌 46 (12) : 1765, 1994.
- 富田 寛：ファルマシア 28 (11) : 1224, 1992, 日本医師会雑誌 119(2) : 216, 1998, 臨床と薬物治療 12(4) : 536, 1993.
- 後藤伸之ら：薬局 56(1) : 61, 2005.
- 井之口 昭ら：臨床と研究 84(7) : 951, 2007.
- 若杉博子ら：月刊薬事 42(10) : 2675, 2000.
- 池田 稔ら：最新医学 45(4) : 718, 1990.
- 科学技術庁資源調査会編：五訂 食品成分表、女子栄養大学出版, 2001.
- 北岡建樹著：よくわかる病気のしくみ、南山堂, 2001.
- 野間惟道編：医科学大事典、講談社, 1983.
- 各製品添付文書.